





# 日本の一地方都市で生まれた 「万能の水」がいよいよ 「世界の水」に

韓国、中国、アメリカに  
続き、アフリカでも 環境、健康、  
エネルギー問題にも一役

 創生ワールド株式会社  
 深井環境総合研究所株式会社  
代表取締役社長 深井利春氏

「水を得た魚」とはこのことだ。  
長野県上田市に本社を置くモノづくり企業、創生ワールド社とそのブ  
レーンたる深井環境総合研究所、そしてそこに従事する人たちの表情で  
ある。とにかく底抜けに明るくてイキイキしているのだ。それもその  
筈で、彼らが20数年かけて製品化した「画期的な水の生成器」が、  
韓国、中国に続いてこのほどアメリカ、アフリカ（ケニア、ルワンダ）  
でも万雷の拍手をもって迎えられたのである。すでに各国の産業界、  
NGOレベルでは、公的機関の支援も視野に、特別委員会を設置す  
るなど本格導入に向けた動きが活発化しているという。同グループを  
主宰する深井利春氏の話に、アフリカでのプレゼンテーションに立ち  
会った日本のNPO法人関係者らへの取材から得た情報も交えて、  
詳しくお伝えする。



「世界平和頂上会議2010」  
(ケニア・ナイロビ)に  
招聘・講演

**創** 生水。ある程度「水」に通じた読者ならば  
ご存知だろう。飲むと健康づくりに  
効果的で、洗剤を使わなくても油汚れが落  
ちるほか、石油に代わるクリーンエネルギー、  
水素ガスが低コストで採取できるとして多く  
のメディアが取り上げたあの「万能の水」で  
ある。

深井氏らが開発製品化したその創生水の生  
成器。これがなんと、「日本国内よりむしろ海  
外での評価のほうが格段に高いですね」（環境  
問題アナリスト）という。なぜか。

「日本という国はなんだかんだといっても世  
界から見ると恵まれているんです。あまりピ  
ンとはこないかも知れませんが、今、世界的  
に「水の危機」が差し迫っています。国連の  
報告によると、現在でも11億人が安全な飲料  
水を得られないでいますし、26億の人が衛生  
的に好ましくない用水を使わざるを得ない状  
況にあるのです。現に発展途上国では、下痢  
だけでも1日あたり3900人もの児童が死  
亡しているんですよ」（同）

そこへもってきて世界人口の増加（発展途  
上国を中心に激増、2050年には100億  
人に達すると見込まれている）に加え、先



進諸国によるこれでもか!と言わんばかりの酷い排水汚染という現実。大きくは報道されていないが、すでにイラン、イラク、シリア間やハンガリーとチェコスロバキア間、エジプト、エチオピア間など、世界各地で河川に水を巡っての紛争が絶え間なく起こっている。要するに世界規模では、水の危機は、すぐそこにある危機。以外の何モノでもないのだ。

だからといってなぜ世界がそれほどまで創生水に注目しているのか。その前に、まずは昨秋、「突然、舞い込んできました」という同社の「ルド関係者」という同社の新たな展開と、ことのあらましから簡単に述べていき



深井社長が紹介されている「TIME」誌を読む東アフリカグリーン財団理事長、カルア博士

「世界平和頂上会議 (Global Peace Convention = 略称GPC) 2010」(11月18~20日/ケニア・ナイロビ)とは、世界各地で起こるさまざまな紛争や差別、公害、病気といった問題解決に、それぞれの国が国境や民族、文化、言葉を超えて取り組もうという、各国の大統領や首相、閣僚級の要人による国際サミット(頂上)会議である。

今回も開催国のケニアからはキバキ大統領、オディンガ首相ほか閣僚がズラリ。海外からはブラジル、セイシェル、韓国、エチオピア、フィリピンなど40ヶ国から政府要人や名立たるオピニオンリーダーが招聘されている。日本からは深井利春氏に未

アフリカ全土の子供たちに届けたい 各国の有力企業・団体からオファー続々

大脇準一郎氏、私塾山元学校学長の山元雅信氏、それに慶應義塾大学の学生・福永健明君の4人だ。会議の詳しい内容についてはGPCの公式ホームページに譲るとして、ここでは創生水とその生成器が現地でのような評価



(左から) 大脇準一郎氏、山元雅信氏、AMD A名誉顧問・チュア博士、深井利春氏

「た いへん貴重で意義深いアフリカ訪問でした。GPCで世界のキーパーソンたちと意見交換できたこともそうですが、私にとってもっとも大きかった成果は、エイズに苦しむ4000人余りの子供たちに創生水が届けられるようになったことです」

感慨深げにそう語るのは、この数ヶ月シアトル、ニューヨーク、ソウル、ナイロビ、キガリ(ルワンダ)と飛び回ってようやくひと息ついた深井利春氏である。ケニアで



「アフリカ児童教育基金の会」塩尻安夫氏と

20年もの間エイズ孤児院を運営してきた塩尻安夫氏に、帰国間際になってようやくというか偶然に出会えたことから(出発前から深井氏はぜひとも塩尻氏に会って孤児院に創生水を届けたいと考えていた、さまざま関係方面に働きかけて実現への道筋をつけたという。言うまでもないがエイズ孤児はアフリカ最大の悲劇であり、人類全体の課題でもある。WHO(世界保健機関)によるとその数は1200万人にも上るとい

「それぞれお国の法律がありますからどこまでお手伝いできるかわかりませんが、できればアフリカ全土の子供たちに創生水を届けたいと思っていますよ」

これも後述するが、深井氏がそれまでのすべての事業を投げ打って創生水の開発に取り組み決心をしたきっかけが、この「子供たちへの思い」である。

ともあれケニアでは現地の有力環境関連企業(半官半民)、グリーンアフリカファンデーション社と業務提携について基本合意。近々にも契約締結し、大学などの研究機関で実証試験や共同研究を経た後、早ければ今春から今夏にかけてホテルや飲食店など民間部門を中心に本格導入となる見通しだ。

ルワンダではRDB(ルワンダ開発機構)とJICA(日本国際協力機構)の現地支所、それに民間の肥料会社などが協力または業務提携をオファー。とりわけRDBは現地でのビジネス展開を前提に、特別委員会の設置を申し出た模様だ。

ほかにもフィリピン大統領室やAMD A(AMD A国際医師団のNPO法人)インターナショナル、アメリカ(マイアミ)の大学からもそれぞれオファーがあり、こ

の1月から2月にかけて研究・導入に向けたコミットメントがセッティングされたという。

## 洗剤が消える!? 自然の鉱物を使って有機的に蘇らせた、本来の水

### 話

を元に戻そう。創生水がなぜ世界中からこれほどの注目を集めているか、である。その理由を説明するには、まずは(川や海の水はもちろん水道水も含めた)現代の水について知っておかなければなるまい。少々エモーショナルな物言いでも恐縮だが、本来の水は「命の源」といわれてきた。ところが案内のとおり現代の水は、その真逆といってもおかしくないほど劣化しているのだ。先述した水の危機でもお分かりのように、むしろ水が人の命を奪う「死の源」になっているといっても過言ではない。言うまでもないが産業革命以来の環境汚染がその原因である。これに対して創生水はどうか。拍子抜けするかも知れないが、はっきり言ってとくに変わった水ではない。ひと言でいえば「元々の水」というしかない。要するに地球環境がまだ汚染されていなかった昔と同じ水、ということだ。詳しくはあまりに難解で筆者には到底説明できないが、簡単にいうと人の手と自然の鉱物を使って有機的に

深井氏の話を聞きながら回りで立ち働く人たちの顔を見るときもなしに見た。やはりどれもイキイキしている。然もありません。

蘇らせた本来の水、である。

たとえば一般的な水道水と比べて具体的にどう違うか。まずは溶存酸素と活性水素の量が格段(10倍以上)に多いことだ。これは人間の身体が本来持っている自然治療力を引き出すのに、「とてつもない威力を発揮する可能性がある(専門筋)」という。身体には個人差があるので誰にでも有効とは言いがたいが、現に愛飲者の中にはアトピーや胃弱、さらには糖尿病やがん治療の副作用が緩和したという人までいるとい

## 究極のクリーンエネルギー 水素ガスがなんと200円/kgで作れる!?

### 低

炭素化社会の実現——。各国それぞれの思惑が交錯してなかなか進展していないが、深刻化する環境問題や化石燃料の枯渇などを鑑みれば、もはや待ったなしである。そんな中、近年、俄然注目されているのが水素

うから驚くほかない。

次は界面活性能だ。界面とは性質の違う2つ以上の物質の境界面のことで、創生水はこれを活性化(乳化)する機能を持っている、ということである。この機能が何に役立つかという点、シャンプーや手洗いはもちろん、油にまみれた食器を洗うにも洗剤をまったく必要としないことだ。洗剤を使わなければ排水が汚れることもない。肌にもいい。現に、創生水だけで洗剤を一切使わない美容院や飲食店は、東京都内をはじめ全国に数百店あるという。

そしてさらに驚かされるのは石油に代わるクリーンエネルギーへの応用である。なんとその創生水から、EV車(電気自動車)や家庭用燃料電池の熱源となる水素ガスが、世界でも類を見ない程、簡単かつ低コストで作れるというのだ。

エネルギーだ。まずは原料が水のため作ろうと思えばいくらでも作れる。しかもエネルギー交換率にめっぽう優れている(少量で高温を発する)。おまけに燃焼後には水に戻って排気ガスを一切出さない。究極のクリーンエネルギー」と呼ばれる所以だ。

問題はその水素ガスをどうやって作るかだが、現在行われている製法は主に蒸気改質法、電気分解法、触媒法などで、いずれも現時点では製造コストがバカに高い(1キログラムの水素ガスを作るのに数十万円)。

したがって普及するにはまだまだ時間がかかることされている。そこで、このところ中国、アメリカなどの「大量炭素消費国」から脚光を浴びているのがこの創生水だという。アルミニウムまたはマグネシウムを使った触媒法を例にとると、水素ガス1キログラム当たりの製造コストが、驚くなかれ200円から600円程度で収まるのだ。

アメリカのメディア(2010年8月9日発行のタイム誌)がこれを大きく取り上げたことから急遽、現地で記者会見(同年10月・ニューヨーク外国人記者クラブ)を開くことになり、「恥ずかしながら、さすがにちよつと慌てましたね(笑)」(深井氏)ともあれ、我が日本もこうなるとうかうかしてはられない。

「今年には本当の意味での世界的な『環境元年』になると予想されます。これまでにい

## 子供たちに夢のある未来を

### 最

や世界のボータレス化は避けられませんが「(環境問題アナリスト)前出)政府や大手製造業は言うまでもないが、国民の一人ひとりにもそれなりの意識改革が求められる、ということだ。しっかりと心すべきだろう。

後になったが、深井氏に水に対する思いを率直に語ってもらったので紹介しておきたい。

「私の子供の頃はきれいな千曲川でよく水遊びをしたものです。それが洗剤や工場排水で汚されて、今の子供たちは水に手を触れることもできません。そのことがずっと頭を離れませんでした。亡くなった父から『人間と自然は一体だ。川を汚せば人間の血も汚れて必ず病気になる。だから川は絶対に汚してはいけない』とよく教えられてきた影響でしょうね。しかし実際にやってきたことと言えはその逆で自分が経営するレストランとホテルの排水で川を汚していることに気付いたのです。そこで『これはいかん』と思い、事業をやめて水の研究に取り組み決心をしたわけです。多くの人の手助けもあってようやくここまでできることができました。これからは私が恩返しをする番です。そのために



## 深井利春氏

Fukai Toshiharu  
1947年、長野県上田市生まれ。地元の高校を卒業後、しばらくは技術者として働くも、実業家に転身。1986年全ての事業を清算して水を取り巻く環境や農業問題に取り組み始める。1989年、創生水の普及に向けて創生ワールド株式会社を設立。1995年、全自動創生水生成器「M21G」を開発。1997年、ロシア籍タンカーが起こした重油流出事故の洗浄活動で注目されたのを機に、大学で臨時講師を務めるほか、全国各地で精力的に講演活動をこなす。その後、西日本支社(広島)、韓国支社(ソウル)と相次いで設立。2007年、新エマルジョン燃料の生成装置と水素ガスの新製法を完成させるために深井環境総合研究所を設立。著書/洗剤の消える日(ダイヤモンド社)

創生ワールド株式会社 〒386-0041 長野県上田市秋和201-2 TEL 0268-25-9422 URL http://www.soseiworld.co.jp/

深井環境総合研究所株式会社 〒386-0041 長野県上田市秋和201-1 2F URL http://www.fukaisouken.jp/

特別寄稿

# 出逢いは「感動」 (NGO地球市民機構副理事長) 大脇 準一郎

このたびナイロビで開催された会議は、政府と民間企業・NGOとの共同会議であった。

ケニアのキバキ大統領やオディンガ首相のスピーチでもっとも印象的であったのは、「ケニアは若い国である」こと、「青年教育に力を入れている」ことであった。15歳から30歳の若者が総人口の7割を占めるケニアは一見、高齢国家日本にとってはうらやましい気持ちもするが、平均年齢が48歳という国内事情を知れば知るほど、悲しい側面にも接する。しかしその若さから来るバイタリティには大いなる希望を感じる。2年前の政変で新体制を出発させたキバキ政権は、今年8月に新憲法を發布し、政権の民主化、新しい国づくりに官民合同で取り組む意気込みが感じられた。開会式にはほとんど全閣僚が出席し、20もある分科会には、各担当大臣、高級官僚が出席し、民間企業、NGO代表らと活発な意見交換をした。



東アフリカグリーン財団理事長、カルア博士を囲んで

長年、南米諸国のNGO活動に携わってきた経験から、国際協力における政府と民間の協力の必要性を痛感していた小生にとって、今回の会議は国際協力のベンチマークの会議であったといえよう。

アフリカに対して日本政府は数年前、国際協力を倍増する旨を発表したが、巨額の資金でインフラを整備することも必要かもしれないが、南米で、その資金の3分の2はどこかに消えたり、メンテナンスの人材育成を伴わないプロジェクトがプロジェクト終了後には野ざらしになっている現場を

いくつも見てきた。現地での継続性、現地のニーズに応える迅速性からもNGOと政府の連携は今後益々重要である。

以前から痛感していることであるが、深井社長に同行していると目に見えない糸でつながっているかのような不思議な出会いに遭遇する。今回ケニアでも幾度か体験した。

本文でも紹介されているように、深井社長の、子供たちに対する熱い思いは人一倍である。後で聞いた話であるが、「今回アフリカ行き最大の眼目はアフリカのエイズ孤児を助ける道を探ることであった」とのこと。

深井社長は「アフリカで長年、孤児の世話をしている」という塩尻安夫さんという方の名前は聞いていても、どこに住んでいるのか知る術もなかった。

ところが、日本へ帰国する前夜にドラマは起こった。

国立競技場での大イベントに参加して、宿泊しているホテルに帰る予定だった深井社長は、バスに乗り込んだところ、フィリピン代表団の方々がフェアウェルパーティーのあるサファリホテルへ行くというので、誘われ同行した。ケニアの伝統文化があふれる迎賓館のような建物で、豪華な食事が始まり、舞台では民族舞踊を中心としたエンターテインメントが始まった。一時ホテルで休憩していた山元氏らも食事が終わる直前に駆けつけて来た。

エンターテインメントも終わりかけの頃、そろそろ帰ろうと席を立った所、出口付近で和服姿の日本人旅行団一行が1つの円卓テーブルで食事をしているので、深井社長が話しかけると「大阪から来た」という。そのリーダーは山元学校の生徒で、今回のガイド役、塩尻さんを紹介した。「塩尻」と聞いて、深井社長はびっくり、思わず「エイズ孤児のお世話をなさっているあの塩尻さんですか?」と聞くと「そうです!」とのこと、深井社長はアフリカでの最後の最後、

念願の人と出会うことになった。

今、川の水を飲み、電気も無い孤児院に創生水生成器をどう設置するか、深井社長は長年の夢を実現するべく現地とのコンタクトに余念が無い。

出発日の早朝7時半、ホテルで東アフリカグリーン財団理事長、カルア博士とようやく再会できた。ナイロビ空港まで出迎えてくださり、財団でお会いして以来、お互いの意思の疎通ができず、マイナス思考となり不満を募らせ爆発寸前であったが、この日の会合で、それぞれ実務的な話し合いの場ができるまで待つて努力していた事実がわかり、すべてのわだかまりは氷解、まさに「雨降って地固まる」で、ケニア第一のNGO団体と国際協力の固い絆が結ばれた。それにしてもサファリパークへも行かず、カルア博士との会議を待っていた深井社長の誠意にカルア博士も脱帽、小生らも驚いた。

ホテルでの朝食時、隣の席のマイアミ・デイド大学のレナガン教授にご挨拶した。深井社長の話に感動され、「ぜひ大学で講義をしてほしい、地元の有力者等に紹介したい」と話は進展し、来年早々、マイアミ訪問が決まった。

ケニヤッタ国際会議場で席を共にしたフィリピンのチュア博士は長年医師会の会長をされた方で、健康と水に対するの理解も人並みではない。会議の合間に大統領秘書室のドミンゲス女史、看護師会のベ



AMDA名誉顧問・チュア博士らに創生水を紹介



ビー女史らと交えて歓談し、1月下旬にはフィリピンを訪問することが決まった。

会議の合間、昼食時テーブルを共にしたいモンゴル代表団の中にテレビ局のアナウンサーも同行していて、深井社長の水の話が面白いとその日の夜、ホテルでのインタビューとなった。そこで社長は「モンゴルに創生水生成器を寄贈し、植林を手伝った」ことを話し、「モンゴルには地下にヒマラヤの黄金の水が眠っているのをご存知か?」と問いかけていた。



モンゴルのテレビ局の取材を受ける深井社長

深井社長の態度は自然態で、それでいいドラマティックな出会いが次々と起こっている。いまや深井社長の夢は、日本のみならず、アジア、世界に飛翔しつつある。

「感動は驚き、驚きが心を震わせる。人生の成功の鍵は、一生を変える仲間との出会い。心を震わせ、響き合う仲間は、感動の中の感動。人生を真剣に生きてきたかどうかで決まる。感動の乏しい人生は淋しく孤独である。いい出会いをする人は、感動、感激、感謝の心を大事にする人だ」

40数年来の友人、阿部博行氏(10万人の識者と名刺交換した出会いの達人、人脈の会会長)

彼の最近著「一瞬で心をつかむ」より

今回のアフリカ訪問でマイアミ・デイド大学のマイケル・レナガン教授と知己を得た深井社長。早くも2011年1月に同大学で講演を行うことが決定した。

レナガン教授は社会科学の権威として国際的にも高い評価を得ており、かつては、フルブライト奨学生として社会科学の理解のため世界中の土地を旅し、自らの経歴の殆どを、学生たちに門戸を開くため、また、どのようにすれば学生たちが自ら成功を得ることができるかを指導することに費やしてきた。

現在、レナガン教授はマイアミ・デイド大学の「マルディー・ジェンレット寄贈教授職 (Mardee Jenrette Endowed Teaching Chair)」として、社会科学学部及び、オーナーズ・カレッジ (Honors College (学生優秀者コース)) にて、社会環境や指導力についての教鞭を執っている。

ケニアのナイロビで数回、深井利春氏とお会いし、その話に驚嘆し、かつ強い印象を受けました。  
 深井氏の創生水に関する技術、及び製品を通しての指導力、学識、実業家魂、同情心、より良い世界についての先見の明は、実に賞賛に値するものであり、時宜になかったものでもあります。1月にマイアミでお会いすることはお互いにとって大変有意義であると考えております。  
 私の学者仲間、新進気鋭の企業家たち、プロフェッショナルな実務専門家及びビジネス界の人々、環境分野の指導者・教師・市民運動家たちを介して是非、会談していただきたい、と申し上げました。  
 深井氏と交流できるようにマイアミ・デイド大学の学識者・教授陣を招待することを提案しているところです。  
 また、エクアドル、ハイチ、ドミニカ共和国の指導者及び関心のある当事者との円卓会議も提案しております。ファン・カシミール氏 (カシミール財団理事長兼 VP Excent Inc 社 (ソフトウェア技術) 社長) の協力で、フロリダ州ドーラルのヘルマン財団内での会見を提案しています。  
 その他に、マイアミ国際訪問者審議会での仕事についても可能性を探っておりまして、フロリダ州コーラル・ゲブルズの事務所での円卓会議の実施、マイアミ・デイド「ジェイ・マリーナ」貿易コンソーシアム (政府の産業振興機関) での会見を考えております。  
 一人の人間として、情熱家として、教授として、幹部会議のメンバーとして、そして一人の世界市民として、貴君の期待にそえることを切に望んでおります。

マイケル レナガン Michael J. Lenaghan (Dr.)

## 日程

- 1/7 マイアミ・デイド大学で講演  
円卓会議：エクアドル・ドミニカ共和国・ハイチの指導力ある方々、関心のある方々を囲んで
- 1/8 マイアミ国際訪問者審議会主催の円卓会議  
学者研究者・教授陣との交流会談
- 1/9 進出気鋭の企業家たちとの交流会談  
実務専門家及び財界人との交流会談
- 1/10 環境分野の指導者・教師・市民運動家たちとの交流会談  
フロリダ・アトランティック大学研究者・教授陣との会談
- 1/11 マイアミ・デイド・ジェイマリーナ貿易コンソーシアム主催の会見  
(2010年12月時点)